

## 生物多様性

令和7年3月25日  
自然保護課

## 愛媛県レッドリストの改訂について

県では、2014年（平成26年）に愛媛県レッドデータブックを改訂し、現在絶滅の恐れのある野生生物を愛媛県レッドリストとして公表しています。

このたび、近年の生息・生育環境の悪化等による県内自生種の絶滅危険性の急速な高まりや、学術的知見の蓄積等により、愛媛県レッドリストの追加・変更等、一部見直しを行いましたのでお知らせします。

なお、詳細は県ホームページ「愛媛県レッドリスト 2024」(<https://www.pref.ehime.jp/h15800/redrisuto.html>)で公表しておりますので、ご覧ください。

## 【カテゴリー別の指定種の状況】

	絶滅	絶滅危惧 Ⅰ類	絶滅危惧 Ⅱ類	準絶滅 危 惧	情報 不足	要注意	計
現状 (2022)	25	640	426	318	313	71	1,793
<b>改定後</b>	<b>25</b>	<b>639</b>	<b>426</b>	<b>321</b>	<b>319</b>	<b>71</b>	<b>1,801</b>
増減	—	△1	—	3	6	—	8

## 1 レッドリストに新たに追加

【両生類：1種】

ナンヨサンショウウオ (EN)

【淡水魚類：1種】

テンジクカワアナゴ (DD)

【海岸動物：6種】

サナダムシ (DD)、フジテガニ (DD)、トリウミアカイソモドキ (DD)、  
マメアカイソガニ (DD)、チゴイワガニ (DD)、ハクセンシオマネキ (NT)

## 2 カテゴリー区分の変更

【コケ類：2種】

イチョウウキゴケ

(CR+EN→NT、愛媛県 RDB2014 発行時以降、新たに多くの生息地を確認。)

カビゴケ

(CR+EN→NT、愛媛県 RDB2014 発行時以降、新たに多くの生息地を確認。)

## 3 学名等の変更

【両生類：4種】

ゲイヨサンショウウオ、イヨシマサンショウウオ、ニホンヒキガエル、  
シュレーゲルアオガエル

【爬虫類：5種】

アオウミガメ、ニホンスッポン、ジムグリ、ヒバカリ、シロマダラ

【陸・淡水産貝類：1種】

マツカサガイ

【コケ類：16種】

チャツミボゴケ、イシツチゴケ、クマノゴケ、フジノマンネングサ、  
サメジマタスキ、レイシゴケ、フトゴケ、ケサガリゴケ、  
キノボリヤバネゴケ、ハラウロコゴケ、カタウロコゴケ、マユハケゴケ、  
ナヨナヨカガミゴケ、コウヤトゲハイゴケ、タカネシゲリゴケ、  
マツムラゴケ

区分		基本概念
EX	絶滅	愛媛県ですでに絶滅したと考えられる種
EW	野生絶滅	飼育・栽培下でのみ存続している種
CR+EN	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
	CR 絶滅危惧ⅠA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
	EN 絶滅危惧ⅠB類	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
VU	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大している種 現在の状態をもたらしている圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
NT	準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息・生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位のランクに移行する要素を有するもの。
DD	情報不足	評価するだけの情報が不足している種
LP	絶滅の恐れのある地域 個体群	地域的に孤立している個体群で絶滅の恐れが高いもの (今回カテゴリーの設定なし。)
AN	要注意種	現時点で種として絶滅のおそれがあるものではないため上記カテゴリー(CR~NT・DD)には該当しないが、県内の生物多様性の保全の観点から今後の個体数や生息状況の変化に特に注意する必要があると考えられる種。



お母さんのルル 娘のララ お父さんのトト  
(自然保護課マスコットキャラクター)

[問い合わせ先(事務局)]

愛媛県県民環境部環境局自然保護課 生物多様性係  
〒790-8570 愛媛県松山市一番町4丁目2  
TEL 089-912-2368  
FAX 089-912-2354  
Email shizenhogo@pref.ehime.lg.jp